

地域再生計画（地方創生道整備推進交付金）事後評価調査

都道府県名	福井県	事業実施主体	福井県、福井市	地域再生計画名	福井市「多様な豊かさを実感できる安心・安全ふくいまちづくり計画」
計画期間	平成27年度～令和2年度	評価責任者	福井市建設部道路課長 上田洋介、福井市農林水産部林業水産課長 加藤雅和		

	指標	基準値		中間目標値			最終目標値		事後評価	達成状況		最終目標値の実現状況に関する評価
		基準年度		年度	中間実績	基準年度	最終実績	指標 総数		達成 数		
①地域再生計画に記載した 数値目標の実現状況	指標 1	子供の事故発生件数の減	1.70件	H25	1.67件	H29	0.91件	1.65件	R2	0.60件	○	各路線においては、高齢者や障がい者を含め全ての歩行者が安全に通行できるように、歩道の幅や段差改善を実施したことにより、目標達成した。 病院群輪審制参加病院周辺に位置する東部1-106号線と東部2-245号線において消雪設備を整備したことにより、目標達成した。 各森林組合と連携して森林経営計画を作成し間伐の促進を図った結果、目標達成した。 本指標の林産品売上高は、販売部門と加工部門に分かれている。販売部門では、間伐材搬出量の増加に伴い売り上げを伸ばした。しかし、間伐材を加工して販売する部門は、公共工事の発注の減少により、土木・建築用材等の加工製品の利用が伸び悩んだ。
	指標 2	冬期間のアクセス時間	のべ4分	H25	のべ3.3分	H29	のべ3.3分	のべ3分	R2	3.0分	○	
	指標 3	年間間伐材搬出量	2.0万m3	H25	3.2万m3	H29	3.3万m3	3.8万m3	R2	4.3万m3	○	
	指標 4	林産品売上高	490百万円	H25	520百万円	H29	364百万円	540百万円	R2	414百万円	✖	
②地域再生計画に記載した 数値目標以外の波及効果の実 現状況	指標 1											
	指標 2											
③事業の進捗状況	事業名		整備量（その他の事業では取組内容）			事業の進捗状況に関する評価						
			計画	中間年度 (H29)	最終実績							
特別措置を適用して行う事 業	市道整備事業（整備延長）		6.160m	1,830m	5,850m	財政再建計画に伴い事業進捗が遅れが生じ、計画整備量には届かなかったものの、事業の進捗により目標の達成につながったものと考えられる。しかしながら、安全で快適な交通環境の形成を図るためには、さらなる歩道の幅や段差の改善を図る必要があり、歩きたくない人にやさしい道づくりの推進を目指して、今後も事業を進める必要がある。						
	林道整備事業（整備延長）		1,700m	140m	361m	財政再建計画の策定に伴い、本計画事業の優先度を市道整備、林道開設、林道改築の順で整備することとなったため、当初計画を見直した。その結果、林道整備においては、事業進捗が遅れ、また、舗装を予定していた林道改築は行わなかった。しかしながら、森林整備を進めていくためには、今後も路網の整備や安全な環境を整備する必要がある。						
その他の事業	流域森林総合整備事業		間伐・枝打ち等の森林整備に要する経費の一部を助成			間伐や作業道の整備など森林整備を実施する森林組合に対し、施策に係る経費の支援を行い、間伐面積の確保を図っている。						
	間伐材資源有効利用促進事業		間伐材の搬出に要する経費の一部を助成			間伐材の搬出経費の低減を図るため、森林整備時に発生する間伐材(B、C材)の搬出経費の一部を支援を行い、搬出間伐量を増加を図っている。						
	森林整備地域活動支援対策事業		森林施策の集約化、森林調査、境界の明確化、作業路網整備に要する経費の一部を助成			間伐の森林施策に必要な立木本数の情報収集や境界の明確化、作業路網の簡易な改良を行い、適切な間伐箇所を確保している。						
	森林環境保全整備事業 (林業専用道等整備事業)		林業専用道の開設(H27～H31) 林道整備延長(実績)L=3542.6m			林業専用道の規格・構造で整備することで間伐作業や搬出作業の効率化を図っている。						
計画外で独自に実施した事 業												
④評価方法	第三者の委員を含む福井市地域再生計画評価会議を開催し、最終目標値の実現状況に関する評価・検討等を行った。											
⑤事後評価の公表方法	福井市ホームページに掲載											
⑥計画全体の総合評価	本地域再生計画では、道整備交付金を活用した市道整備と林道整備を一体的に実施し、市街地においては、交通量が多く、事故が発生しやすい幹線道路の歩道の幅及び段差改善をすることで、歩きたくない人にやさしい道づくりを進めた。さらに、最重点除雪路線や病院群輪審制参加病院の周辺路線で消雪設備の整備を行い、大雪時においても、道路交通の安定確保を図ることができた。中山間地域では、林業経営の基盤となる林道を含めた路網整備を継続的に行い、効率的な作業システムの組合せや施策の集約化により木材生産のコスト低減を図り、間伐材を主体とした森林整備を促進し、市産材の利用拡大や新たな木質バイオマス発電施設への資源供給など間伐材の有効利用を図ることができた。一方、持続的な林業経営や森林経営を実現するために必要な林産品の売り上げの増加については、エンドユーザーのニーズと生産側がマッチングまでは至っていない状況である。											
⑦今後の方針等	本地域再生計画においては、円滑に整備が進んでおり、子供の事故発生件数の減少や年間間伐材搬出量等も含め目標をほぼ達成できた。しかしながら、今後も多様な豊かさを実感できるまちづくりを進めていくためには、整備した林道を活用し、生産側がエンドユーザーのニーズを把握しながら優良材を搬出できる体制を構築した森林整備を進める必要がある。そのためには、川上から川下までで構成する「ふくいの未来の森林づくり推進協議会」において検討するサプライチェーンマネジメントの構築や林業従事者の育成、木製品のPRなどソフト対策にも取り組んでいく。											